

1. 評価結果概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	3171400710
法人名	社会福祉法人 信生会
事業所名	グループホーム 信生ゆりはまの里
所在地	鳥取県東伯郡湯梨浜町はわい温泉58番6 (電話)0858-35-5111

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1		
訪問調査日	平成20年2月14日	評価確定日	3月11日

【情報提供票より】(20年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 4 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	11 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	3 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	140 円	昼食	320 円
	夕食	320 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.94 歳	最低	64 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人専仁会 信生病院・医療法人くらしげ歯科クリニック
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東郷湖湖畔のはわい温泉の一角にデイサービスと併設して新しく建設されたグループホームである。明るく採光の良い居間・食堂からの東郷湖の展望はすばらしく、ゆったりと時間が流れる。また、はわい温泉の立地を生かし、お風呂には温泉が引いてある。開設2年目であるが、利用者の方は落ち着いて穏やかに暮らしておられた。職員の方は利用者個々の行動・考えを理解しつつ、一人ひとりにあったケアを目指して頑張っておられる。ホームで犬を飼い、一緒に散歩に行ったり、動物と触れ合う体験も取り入れられている。また、利用者の重度化・終末期の看取りに関しては、隣接している老健施設と協力病院である信生病院のバックアップ体制が整っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題である理念の表示方法については、改善されていた。地域とのつきあい、家族への定期的な報告、家族会等は現在検討し、改善に向け努力されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意味を職員全体で理解した上で、職員全員で、自己評価に取り組み評価されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では利用者やサービスの取り組み方について報告し、そこでの意見を職員に周知徹底しサービス向上に活かしている。特に町の包括支援センターの主任介護支援専門員と意見交換し、認知症対応について協働している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の意見、苦情等は、現在家族からホームに直接報告されたり、役場窓口に報告されている。家族会を設置するなどし、話し合いを持つ機会を増やす努力もされている。また今後定期的にホームたより等を発刊するなどして、家族との距離感を縮めていく予定である。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	現在積極的に地域とのかかわりを持つよう努力されている。ホームの持つ認知症の専門性を活かしながら、地域の方の認知症への理解と、認知症との関わり方を広めていく活動を行っていただきたい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を作成し、利用者も見易い場所に大きく掲示されている。	○	地域密着型サービスとしての役割を職員全員で確認し、今後地域の中でどうあるべきかを踏まえ、地域密着型の理念の作成を望みます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	見易い場所に大きく掲示し、管理者、職員も日頃から念頭に置きながら日常業務にあたっている。		職員の引継ぎ時、職員会議等を利用して理念を確認し、ケアにあたられるようにされると良いと思われます。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の「とんどさん」や児童館祭り等の行事に参加したり、事業所の納涼祭の案内を地域に配布したりしている。		地域向けの便りの発行するなど、より地域の方へ認知症の理解を深めてもらい、ボランティアを含めた協力の働きかけを進めていくことが望まれます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は外部評価を理解しており、自己評価を職員全体で行い、前年評価の指摘項目を改善、検討を行い、日々介護に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、役場包括支援センター、地域の代表、家族の代表、利用者の代表、計画作成者から構成されており、2ヶ月に1回開催されている。そこでの意見については、運営者で検討されている。メンバーから災害対策や終末期に向けてのサービスに関する問題提起等がみられるようになってきている。		運営会議の意見を運営者と現場で検討する会議をもたれ、意見を今後の運営にフィードバックしていける体制を整えられることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居、退所等を含め、町の包括支援センターの主任介護支援員と連絡を取り合うなど、課題解決に向けた協働を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の請求書と共に、金銭管理、主治医の意見を含めた健康状況を送付している。また、利用者の近況については家族の訪問時に各ユニットの管理者を中心に面会時に行われている。遠くに住む家族には電話で報告している。		定期的なホーム便りを活用するなどして、利用者の近況を報告する仕組みづくりを検討されると良いと思われま。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見・苦情等は、現在家族からホームに直接報告されたり、役場窓口に報告されている。家族会を設置するなどし、話し合いを持つ機会を増やす努力もされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を最小限に抑える努力を常に意識して行っている。職員の移動、離職、新任による利用者への配慮としては、管理者より利用者へ丁寧に説明し、納得して頂けるように対応している。家族には、面会の折に説明している。		職員の移動や新任職員の紹介についても、定期的なホーム便りを活用するなどして、家族に報告されるようにすると良いと思います。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は月2回勉強会を行っている。また、外部研修を受ける機会も設けるようにしている。研修内容を報告書にまとめ職員で共有できるようにしている。		サービスの質の向上を目指すための研修計画を作り、特に認知症をテーマとした外部研修等に取り組んで欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センターの職員により、町内のグループホームの交流が計画されつつあるが、未だ実施されておらず、他ホームとの交流が少ない。	○	20年5月には米子市でグループホーム連絡協議会の全国大会も開催されます。グループホーム連絡協議会等に加入し、相互研修等によりケアの質の向上に取り組まれることを望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり入所ではなく、事前説明を行ったり、ホームの見学等を行って、ホームの雰囲気に馴染まれ、納得のうえで入所してもらえるよう工夫している。		認知症対応デイサービスや、認知症対応短期入所生活介護のような体験を導入し、利用者にとって影響の少ない方法で入所ができるよう努力していただきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と共に日々の家事を一緒に行い、特に入居者の「あるがまま」を受け止める事に留意し、そこから学び支え合う関係を作ろうとしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成段階のアセスメント、日々の行動や会話の中で本人の思いや意向を把握している。また、家族の方からも意見等を聞くようにし、担当会議を開催し検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望をできるだけ尊重しつつ、家族の思いやニーズ、関係者の意見を反映させたアセスメントを作成している。また、2週間に1度職員会議を開催しプランに反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。職員会議開催時に介護記録とプランを照らし合わせ、状況変化が生じた場合は適宜変更を行っている。		介護計画と介護記録が別ファイルになっているが、同一ファイルに閉じられた方が、照らし合わせ等の際に見易いと思われるので、検討されても良いと思います。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関と包括支援センターとの連携を図るなど、事業所の多機能性を活かした支援を行っている。また、外泊時における支援も行っている。		今後、認知症対応デイサービスや、認知症対応短期入所生活介護、訪問サービス等地域における認知症の専門家としての多機能性を取り入れられることを望みます。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の納得の上でかかりつけ医を決定している。通院介助も行っており、通院時に利用者の体調についてかかりつけ医との情報交換を行い、相談し、その情報を家族にも提供している。また、認知症専門医の受診も出来、認知症についての指示や助言をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は対応していないが、主治医、家族と相談して、出来る事の介護、支援を行うよう努めることとしている。また、家族との話し合いを密に取り今後の検討を進めている。	○	今後本人と家族の意向があれば、早めに職員間で意識確認を図り、医療処置を受けながらの生活の継続や重度化した場合や終末期の入院の回避などの支援方法について今後検討されていくと良いと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する記録の取扱いについては、利用者の目に触れない机の中に保管し、職員が管理を行い、必要時以外は出さないようにされている。また、入浴、トイレ使用時はドアを閉め介護するように心掛けるなど、プライバシーを損ねない対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の予定は組まれているが、散歩や入浴などその日の入居者の希望に配慮しながら柔軟に対応している。一人ひとりの体調に合わせた無理のない支援している。また、いつでも休める環境を整えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に食事の買出し、準備、調理や後片付けを行っており、職員も同じテーブルで食事をしている。利用者がそれぞれの役割・出番を発揮し楽しそうに食事されていた。また、嗜好調査や管理栄養士による栄養管理も行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決められているが、利用者の希望を出るだけ取り入れて入浴支援されている。入浴拒否の利用者については、職員が利用者には話を聞いて入浴してもらえるよう支援が行われている。また、お風呂は温泉になっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションで、体を動かす事や、手工芸等の楽しみごとが行われている。食事の時間の役割作り等の支援が行われている。また毎朝の日課である犬とのふれあいも兼ねた散歩も取り入れられている。生活歴・習慣・趣味等の情報を聞いて、調理・洗濯・掃除・制作活動等、生活に意欲が持てるように支援している。		畑作りを希望される利用者も多いようですので、検討をされることを望みます。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望を聞き、戸外に出かける支援が行われている。日常的には毎朝の犬との散歩、買物、近所の足湯に出かけたりと色々な支援が行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、ブザーやチャイムで対応している。職員は日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。但し、興奮の見られる時間帯、その日の利用者の精神状態を配慮して玄関の鍵を使用する場合もある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練、避難訓練実施している。年に1回は夜間帯を想定した利用者も参加しての避難訓練している。災害に備えて毛布等の用意はあるが、備蓄にまでは及んでいない。地域住民にも緊急時の要請を呼びかけている。		近隣の協力要請及び、水、食料品、生活用品の備蓄等について検討を望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を毎日チェックし、記録している。嗜好調査を行い、管理栄養士による栄養管理も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間に季節の草花を飾ってあった。また季節感を取り入れるため、季節ごとの貼り絵を作成して飾ってあった。居間にはコタツが設置されており、直射日光にはロールカーテンで対応するなどして、室温も調節がなされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から使い慣れた品物が持ち込まれており、それぞれの雰囲気をもてるよう工夫されている。また居室が広めに取ってあるので、家族の希望により、宿泊も可能となっている。		